

40周年を迎えた高津区 ～区を中心とした市政運営へ

(事務局)

本年4月に、高津区は区政40周年を迎えましたね。

(堀添)

川崎市が政令指定都市になったのが1972年で、その時に高津区を含む5つの行政区も誕生しました。1982年には高津区から宮前区が分区しましたので、現高津区として捉えても、すでに30年が経過したことになります。

(事務局)

この40年間で、高津区も大きく変わりましたね。

(堀添)

はい。とくに人口の伸びが顕著です。バブル期までは川崎市全体の伸びとほぼ同じ傾向でしたが、その後は川崎市全体の伸び率の倍近いペースで人口が増えてきました。高津区は比較的交通の便が良いことと、工場跡地や斜面緑地などで急速に宅地化が進んだことが大きな要因になっています。

(事務局)

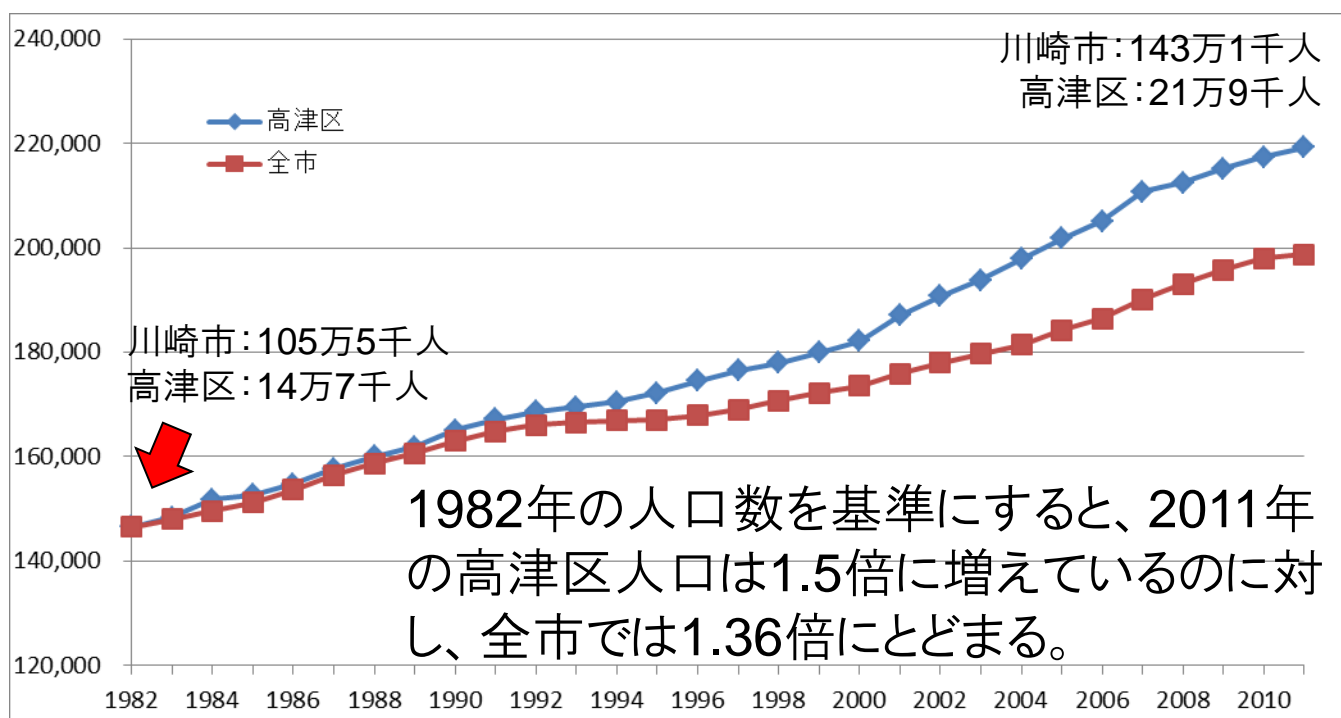
人口動態だけ見ても、高津区ならではの特徴があるのですね。

(堀添)

そうですね。そして区ごとの違いは、徐々に大きくなっているように思います。「生活圏」という視点で見ても、高津区民の生活圏は、世田谷区や青葉区、都筑区の区民と重なっている部分も少なくありません。高津区の課題は高津区の中で議論し解決できる仕組みづくりが、税金を効果的・効率的に使う上でも大切だと思います。



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 幹事長
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住



いまだ厳しい 東日本大震災の被災地

前川崎市議会議員 堀添 健

3月11日の東日本大震災から1年が経過しましたが、被災地はいまだに厳しい状況が続いています。最近メディアで放送される機会もめっきり少なくなりましたが、被災地の復旧・復興にはまだまだ時間がかかるものと思われれます。地震などの大規模災害が起きると、消防や行政などの支援が始まる



までには時間を要します。今回の被災地でも、概ね震災後一週間は、地域の中で問題に対処しなければならない状況でした。

たとえば、だれが被災し救援が必要なのかという基本的な情報でさえ、地域コミュニティの方々が一軒一軒歩いて確認しなければ、わからなかったのです。

改めて、日ごろからの地域コミュニティの大切さを痛感いたしました。

中央の建物の向こう側で海面から顔を出しているのが旧海岸線の松並木。手前は鉄道の跡で駅舎は跡形もなく無くなったまま。(2011年9月17日 気仙沼市)

川崎市における放射線測定結果(5月8日現在)

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、昨年4月22日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大 気：公害研究所（川崎区）、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上5cm、50cm、100cmとも自然界の放射線レベルの範囲内です。（4月は10日に実施）

市内農産物：果菜類（トマト、きゅうり）、根菜類（さつまいも、大根、玉葱）、果実（梅、梨、柿）の出荷前チェックでは、昨年5月に梅（セシウム：29.5ベクレル）、10月に柿（セシウム：4.5ベクレル）から検出された以外は、検出されていません。
（食品衛生法上の基準値は一般食品100ベクレル/Kg以下、乳児用食品と牛乳50ベクレル/Kg以下、飲料水10ベクレル/Kg以下）

農用地土壌：多摩区の畑（露地）で3月に県が実施した土壌調査では、合計40ベクレル/Kgのセシウムが検出されました。（上限値は5000ベクレル/Kg）

**放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。
（電話予約が必要です。044-861-3113）**

政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294